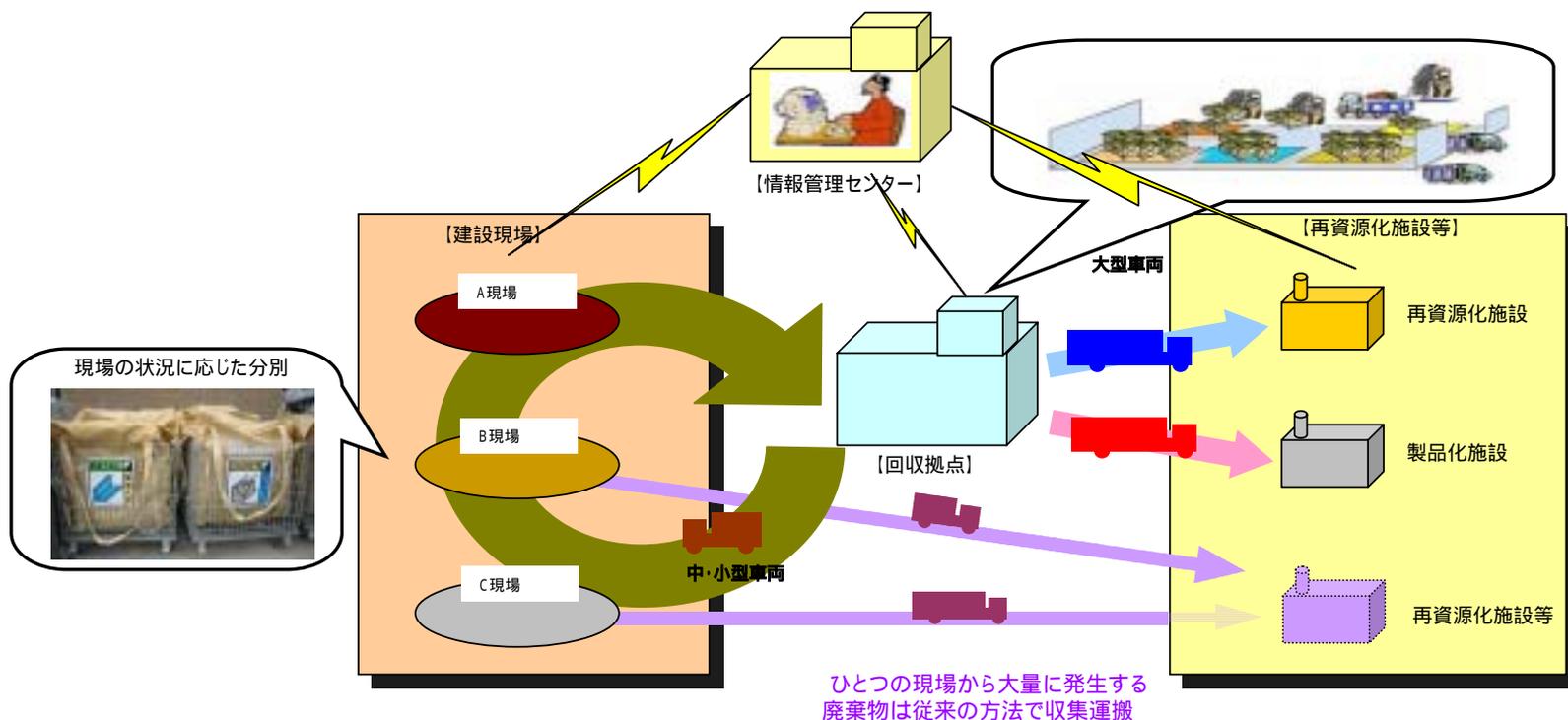


平成18年度の検討結果のとりまとめ
(本協議会で検討対象とする
小口巡回共同回収システムのイメージ)

2007年3月29日

◇小口巡回共同回収システムのイメージ

本協議会で検討する小口巡回共同回収システムの全体イメージは下記通りである。



図「小口巡回共同回収システム」のイメージ

◇ 小口巡回共同回収システムのイメージ

(1) 現場の状況に応じて分別品目を決定し、分別を実施

従来の方法

【現場】会社、現場ごとの基準で分別

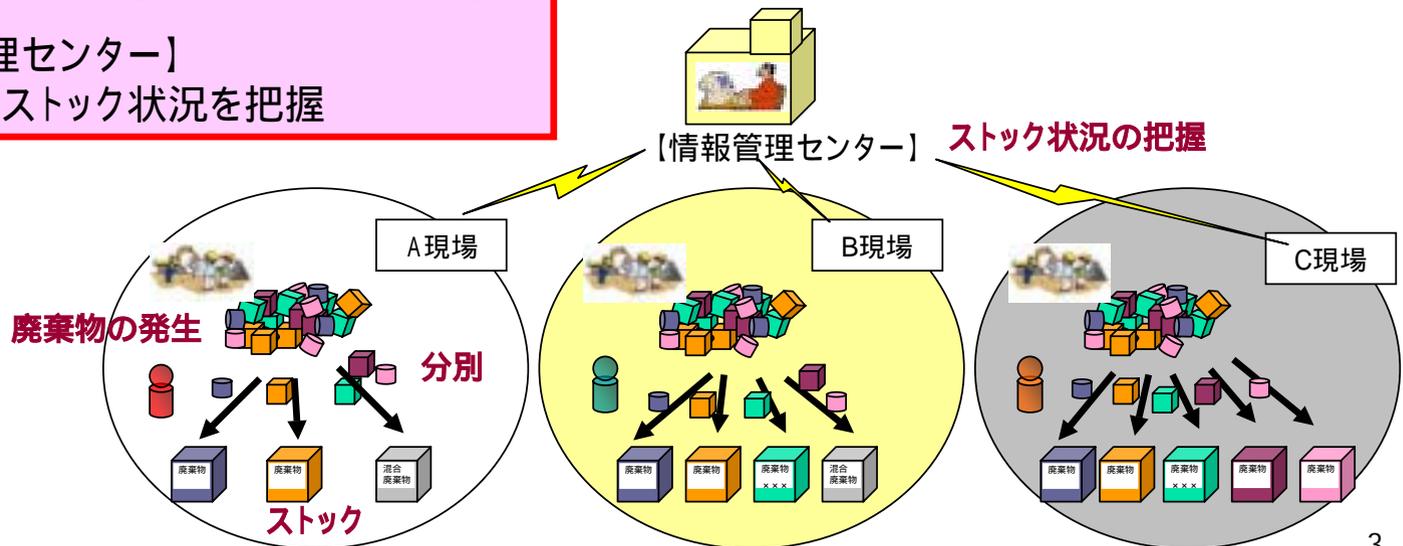
本システムを導入した場合

【現場】共通の分別基準のもと、現場の状況に応じて分別品目を決定し、分別

【情報管理センター】
廃棄物のストック状況を把握

従来の方法に対するメリット

・会社、工事規模などが異なる現場から
同じ条件の廃棄物が排出され、再資源
化の向上につながる効率的な分別を
実施



☆ 小口巡回共同回収システムのイメージ

(2) 各現場から廃棄物の回収を依頼

従来の方法

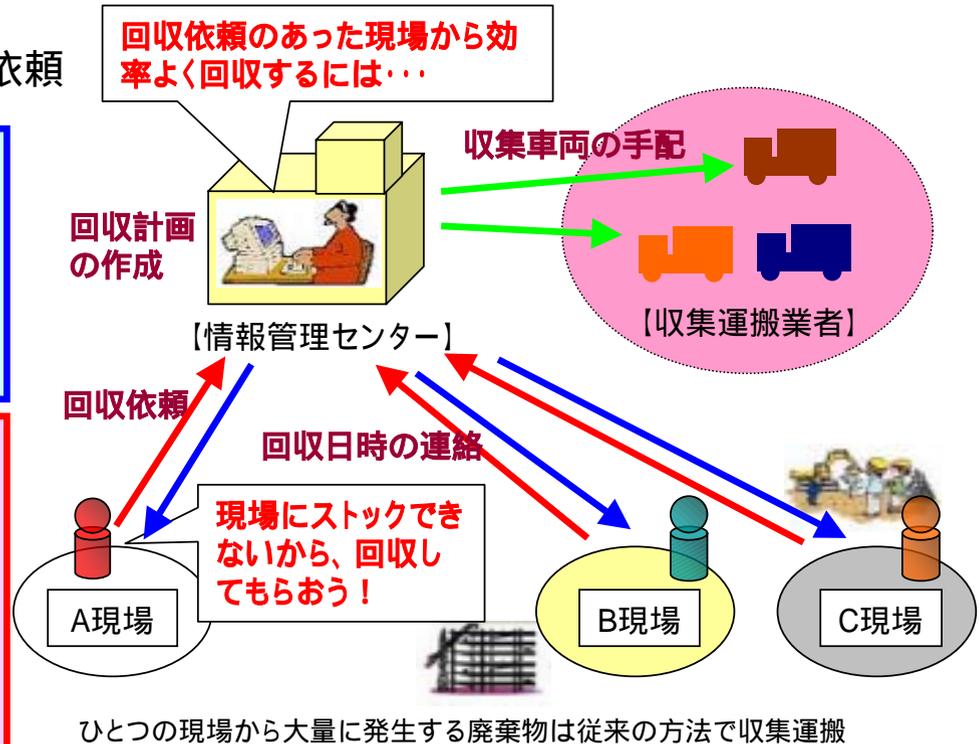
【現場】廃棄物の回収を個別の収集運搬業者に依頼

【収集運搬業者】収集車両の手配

本システムを導入した場合

【現場】廃棄物の回収を情報管理センターに依頼

【情報管理センター】
排出事業者からの依頼に基づき、
効率的な回収計画を立案し、収集
車両の手配を実施



従来の方法に対するメリット

・効率的な回収計画の立案を実施

◇ 小口巡回共同回収システムのイメージ

(3) 現場から廃棄物を搬出

従来の方法

【現場】廃棄物のストック量が一定量以上になった段階で、廃棄物を搬出

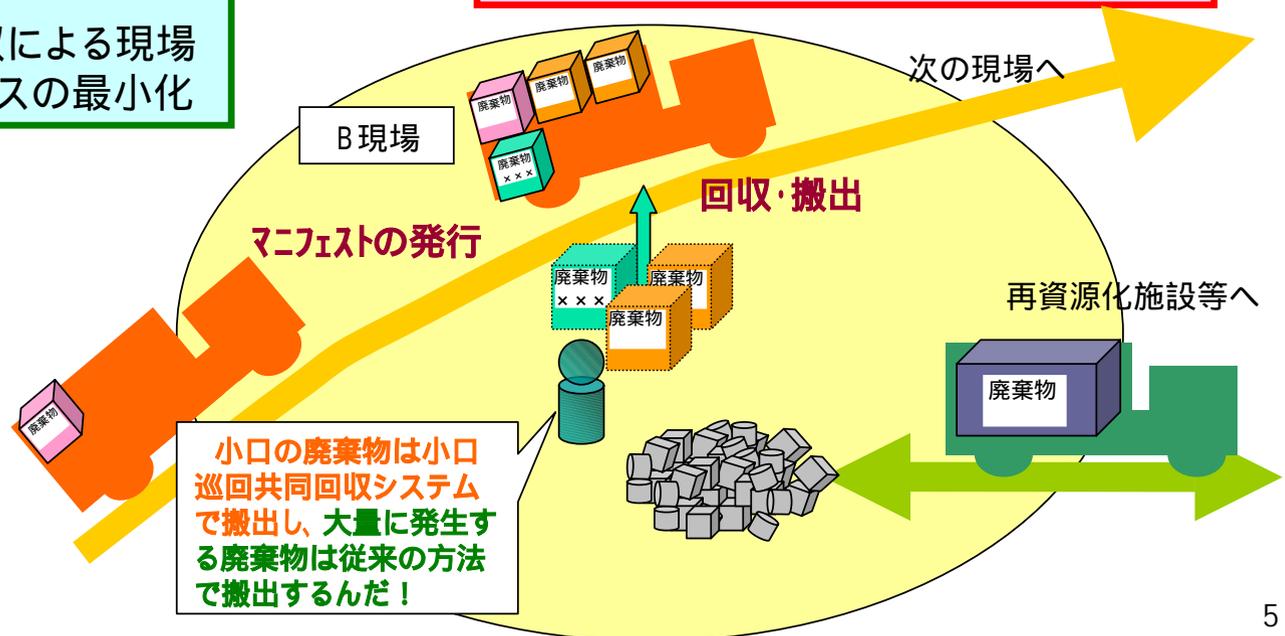
従来の方法に対するメリット

【現場】小口回収による現場での保管スペースの最小化

本システムを導入した場合

【現場】

- ・少量の状態での廃棄物を搬出
- ・電子マニフェストと連動したシステムにより、搬出時の負担が軽減



◇小口巡回共同回収システムのイメージ

(4) 廃棄物の回収と車両の位置情報など運行管理

従来の方法

【収集運搬業者】工事現場単位で廃棄物の回収を実施

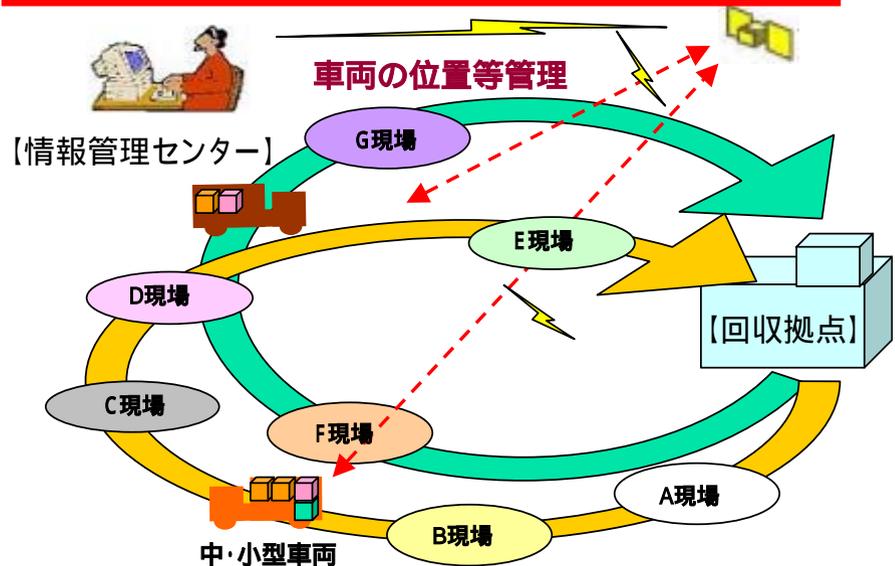
従来の方法に対するメリット

- ・廃棄物を複数現場から巡回回収することによる運搬効率の向上
- ・多品目の廃棄物を混載して収集運搬することによる積載率の向上
- ・運搬効率の向上に伴い、環境負荷が軽減
- ・車両の運行を管理しているため、当日の急な回収依頼にも対応可能

本システムを導入した場合

【収集運搬業者】小口の廃棄物を複数の工事現場を巡回し、回収を実施

【情報管理センター】
車両の位置情報など運行管理を実施



◇ 小口巡回共同回収システムのイメージ

(5) 回収拠点の活用

従来の方法

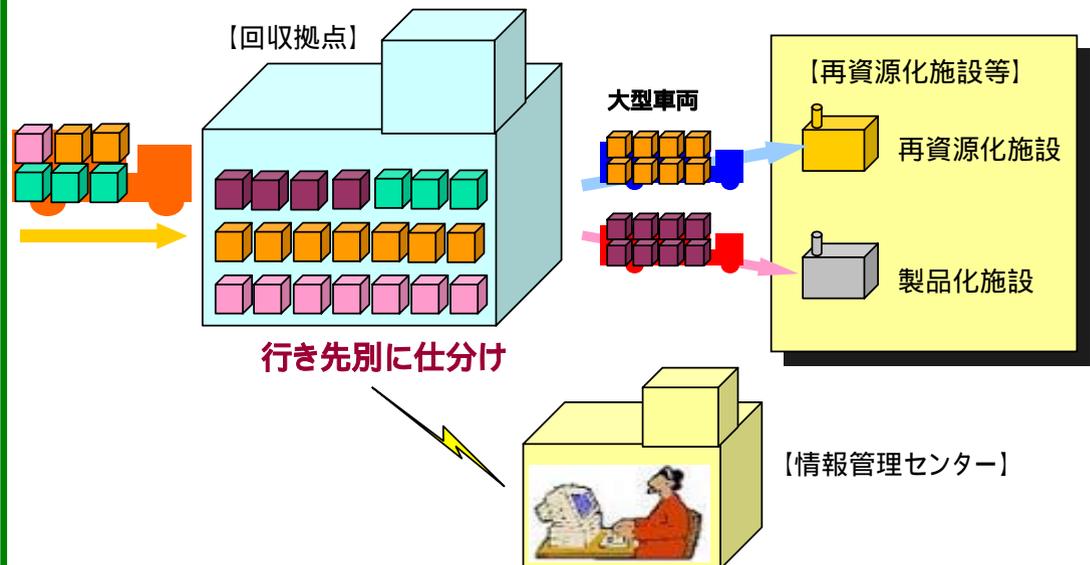
【収集運搬業者】工事現場で回収した廃棄物は、中間処理施設等へ、中小型車両を用いて運搬。

従来の方法に対するメリット

- ・積替えによる運搬効率の向上
- ・廃棄物の搬出時期の調整による運搬効率の向上
- ・再資源化施設等へ搬出する際に需給バランスの調整が図られる
- ・分別基準の整備による廃棄物の品質及び量の確保

本システムを導入した場合

- 【収集運搬業者】
- ・中小型車から大型車へ廃棄物を積替え、再資源化施設等へ搬出
 - ・受け入れ先の需要に応じ、回収拠点でのストックや搬出先施設の変更を実施



☆ 小口巡回共同回収システムのイメージ

(6) トレーサビリティの確保(適正処理の確認)と事務作業量の軽減

本システムを導入した場合

【情報管理センター】

- ・電子マニフェストと連携したシステムを用い、廃棄物を管理
- ・GPS等を用い、廃棄物のトレーサビリティを確保

従来の方に対するメリット

- ・電子マニフェストと連携したシステムを用いることによる、マニフェストの発行・管理の事務の軽減
- ・現場から搬出された廃棄物のトレーサビリティの確保

